社団法人 熊本県保育協会

メニュー

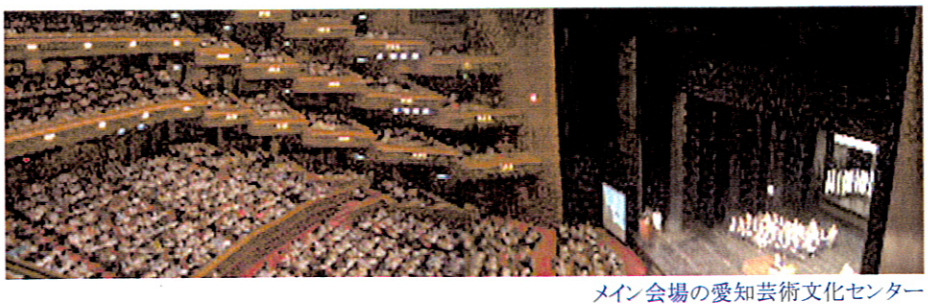
トップページ
イベント情報・登録
ニューズレター
会員リスト
リンク集
出生率調査＆子育てアンケートからの解析

## 更新情報

---->

- 2008/07/31 日保協速報 No.2024：『社会保障の機能強化のための緊急対策「5つの安心プラン」が公表される』を掲載しました。
- 2008/05/22 日保協速報 No.2012：「次世代育成支援のための制度の基本的考え方が示される」を掲載しました。
- 2008/03/19「出生率調査＆子育てアンケートからの解析」を掲載しました。
- 2008/03/17「平成20年3月12日　臨時総会」資料を掲載しました。
- 2008/03/08 厚生労働省発表「新待機児童作戦」資料を掲載しました。
- 2007/11/20 日保協速報 No.1928「地方分権に関する中間まとめが公表」報告を掲載しました。
- 2007/11/20 熊本県保育協会青年部速報「第27回全国私立保育園連盟青年会議　岐阜大会」報告

# 「子どもたちに“愛と知”を」…全私保愛知大会開催！！



メイン会場の愛知芸術文化センター

去る6月29日～7月1日、30年ぶりに開催された万国博覧会「愛・地球博」で盛り上がる愛知県名古屋にて、第48回全国私立保育園研究大会が開催された。全国より2，300名以上の参加者で満堂となった愛知芸術文化センターでは、荘厳なハンドベルの演奏で開幕、青年会議会長の鈴木右氏の司会で開会式が進行した。

## ○開会式

愛知県市立保育園連盟会長 佐藤勝洋氏が歓迎の挨拶をされた。「この大会では『子どもたちに愛と知を～育てよう生きる力・広げよう未来への夢』をテーマに掲げています。この大会が未来を担う子どもたちが夢を持てるよう、また生きる力が育つようにするために、今保育園がなにをなすべきかを考える機会になれば幸いです。」

続いて、厚労省からの行政説明、全私保連常務理事 菅原良次氏より基調報告があった。運営費の一般財源化を引き続き注意する、総合施設に関してはまだ理念的に明確ではない、交付金制度の創設は改革の中で目的使用させるという積極性を高評価するといった内容であった。

## ○基調講演

開会式に引き続き、基調講演として大日向雅美氏の講演があった。

**演題「地域の子育て支援と保育士の役割り」**

**講師　大日向雅美　氏**

**恵泉女学院大学人文学部教授・同大学院教授（発達心理学）**

**港区子育てひろば「あい・ぽーと」施設長**

子育ては、本来喜びと希望に満ちた営みである。しかし、今子どもと共にある暮らしに喜びを見いだせず、苦しむ親が増えている。そのため保育所には地域の子育て・家族支援の拠点としての期待が高い。しかし様々な特別保育、子育て支援が現在展開されているが、それが本当の子育て支援となっているかは注意が必要。保護者ニーズを迎合するばかりでなく、子どもの育ちにしっかり目を向けながら、地域のコーディネータになって欲しい。つまり保育所が、企業・地域が変革するための中心、あるいはつなぎ役となって子育て社会を変えていって欲しいということ。全私保が提唱している「子育てルネッサンス」とは胸が躍るような言葉。まさしく子どもを取り巻く環境で意識改革を興して欲しい。

## ○分科会

今回の愛知大会では、29もの分科会が設定された。その中から青年部が参加した分科会をレポートする。

**【第16分科会】第三者評価　－評価を受けることで何が変わったか？－**

を掲載しました。
■ 2007/9/10 熊本県保育協会青年部速報「日本保育協会 第29回全国青年保育者会議福島大会in会津若松」報告を掲載しました。
■ 2007/8/24 熊本県保育協会青年部「子育て特別セミナー」報告を掲載しました。
■ 2007/8/13 国家公務員給与の人事院勧告が出される(日保協速報 No.1919)を掲載しました。
■ 2007/8/13 保育所保育指針改定の中間報告案がまとまる(日保協速報 No.1918)を掲載しました。
■ 2007/8/1 出生率調査アンケートについてを掲載しました。
■ 2007/8/1 労働保険料の納入についてを掲載しました。
■ 2007/8/1 熊本県保育協会ホームページを開設しました。

第三者評価を受けた3つの保育園の発表があり、助言者である桜花学園大学教授近藤正春氏、NPO福祉総合評価機構理事渡辺士朗氏の助言及び講義がありました。第三者評価とは何か。第三者評価に対する疑問、不安、拒否反応が出てきている中で、それでも第三者評価というシステムが必要であることを強調されました。保育園関係者が最も懸念している「評価」とは保育園をランク付けるというものではなく、保育園の現在の状況、問題点の掘り出し、改善活動のための道具であり、また保育園の情報公開の有効な手段にもなるようです。つまり第三者評価は、保育サービスの質的な向上のために使える道具のひとつということです。(平山)

**【第21分科会】総合施設と保育のあり方について～求められる次世代育成支援とは～**

講師 鯨岡 峻(京都大学教授)
シンポジスト 加藤繁美(山梨大学教授)
普光院亜紀(保育園を考える親の会代表)
菅原良次(東京都たんぽぽ保育園園長)
座長 吉田正幸(遊育代表)

---

厚労省と文科省のお役人を呼んで、総合施設についての討議を行う予定であったが、「国会開催中のため」という微妙な理由でドタキャンとなった。そのため身内のみのシンポジウムという少し歯ごたえのない内容となったが、反面吉田さんを中心に深い内容が聞けた。詳しくは「The Jonin」でお伝えする。

**【第23分科会】「伝えたい内容」「伝える」「伝わる」「信頼関係の構築」**

まずは3人の講師の先生方に、園長・保育士の想いや園での様子を親・家庭・地域にどう伝えていくか、それぞれの実践例及び講演が行われた。

講演①講師 横浜市 初音ヶ丘幼稚園 園長 渡辺 真一 氏

子どもは上手く親に何かを伝える事が難しいので、それをいかに上手く伝達し理解してもらうかが大事。相手につたわらなければ意味がない。その為には①伝えたい事を分かりやすく。②読みやすく。③楽しく。④興味を引き出すように。園側が一方的に出すのではなく、相互に投げかけ合える雰囲気を作っていく。お便りは園の情報を開示する手段の一つ。速報性のあるお便りで信頼を。

---

講演②愛知県 明照保育園 園長 中島 章裕 氏

年3回の園児の日常を撮ったビデオによる園便りを行っている。園での出来事をなかなか上手く伝える事の出来ない子もビデオを見ながら色々な事を家庭で話してくれる。
HPの掲示板では結構活発に保護者同士の意見交換や保育園側の想いを伝える場に成長してきた。これらの貴重な意見が園のより良い運営に役立っていると同時に、信頼関係の構築にも役に立っている。また、掲示板投稿の携帯電話への通知メールを利用した一斉配信では、毎日の保育の様子をお迎えまでに携帯のEメールに配信している。お迎え後の子どもとの話題が増えた、と好評。また、災害時の緊急連絡や子どもの休みが多い時の病気情報や対処の仕方にも活躍している。(災害時の電話連絡の件数が減った等)

---

講演③神戸市 はっと保育園 園長 片山 喜章 氏

伝えるということは"園の子育て文化"を作っていくこと。
社会的に見て、恥ずかしくない堂々とした「運営哲学」の構築なしに「伝える」など、おこがましい事。伝えていく過程において自己の運営方針にゆがみがないか常に点検する。
理念をしっかり持つ→リスクを抱える→腹をくくる。誰(保育者)が、誰(保護者)に、何を伝えたか。皆が知るシステム作り。問題や子どもの様子を園全体で把握する。

## ○グループ討議

講演後休憩を挿み、講師の先生を交えてのグループ討議が行われた。

・自分の保育のテーマ(課題)を考える。自分達に足りない部分をきちんと認識をする。

・文章を書く事は自分のやっている事、やってきた事を整理する事。書くことには責任を伴う。

・定期的にではなく、“伝えたい時”に。(即応性)

・相手が反論できないような形で伝えると反発が出る。伝え方の工夫

・会議の主題は事前に。その場で園長や主任が講演して終わるのは会議ではない。誰もが主題に対する意見を持った状態で会議をする。(時間の無駄をなくす)

・職場のルール、園の方針を飛び超えないように。

・ お便りを出す前に先生同士で閲覧しあうなどして校正する。

## ○記念講演

テーマ「人材育成と経営」

講師 トヨタ自動車株式会社取締役社長

張 富士夫 氏

最終日、トヨタ自動車副会長 張富士夫氏による記念講演が初日に続き愛知芸術文化センターにおいて盛大に行なわれた。張氏は6月23日までトヨタ自動車の取締役社長を6年間務め日本企業で初の連結利益1兆円を達成し、世界的にもその経営手腕は高く評価されている人物である。

今回、「トヨタの社長とは、どのような人物なのか。どれだけカリスマ性がある人物であるのか」とても興味を持ち大会に参加した。しかし、その印象はまったくいい意味で裏切られた。あまりに日本的であり、いいおじさんであった。笑顔といい、腰の低さといい1兆円の利益を生み出している会社のトップとはとても思えない生え抜きのおじさんであった。しかし、終身雇用を維持し社員を育て、生産性を常に高め最大の利益を生む日本企業の社長にまさに相応しいのではないかと話を聞くにつれ徐々に感じていった。

そして、話の中から保育園運営にも生かすことが出来る運営のポイントとして・ムダ・カイゼン・業務の標準化・現場主義の大切さ、そしてそれらを今後経営者として学んでいく必要性を強く感じた。カルロス・ゴーン、ジャック・ウェルチもいいが、やはり日本人を雇い日本で福祉サービスを提供する以上、「日本的であり、魅力的ないいおじさんになれるよう己を磨かなきゃ」と感じた。そして、それが職員の質の向上・保育園の質の向上へとつながることを願って。